



喜界高だより

鹿児島県立喜界高等学校

電話 (0997) 65-0024

〒891-6201 鹿児島県大島郡喜界町赤連 2536 FAX (0997) 65-0217

ホームページアドレス <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kikai>

No.118

校訓
自主自立
開拓創造
公德奉仕

「趣味は何ですか?」と聞かれれば、「まあ、読書ですかねえ。」としか答えられないのだが、読書が趣味になって良かったと今ではつくづく感じる。まず、暇を持て余すことがない。飛行機や電車の待ち時間、銀行や病院などでの順番待ちで、いくら待たされても本さえあれば苦痛にならない。従って、イライラすることなく精神の健康状態を保てる。

読書がいつ趣味になったのかを考えてみると、小学生時代に図書室の本を借りていた記憶はあるが、自分のお小遣いでわざわざ本屋に行って本を買った時と定義すれば、中学校一年生か二年生ということになる。それ以来、ちよっとスキマ時間ができるたびに手を伸ばす習慣がついた。

そう考えると、スキマ時間どころか大きな学習時間や睡眠時間まで奪ってしまうスマホの影響で、能動的な読書体験のない若者が最近めっきり多くなっていることが私の最大の懸念だ。当然、喜界高校生も例外ではなからう。本という文字の海で泳いだことのない人間の語彙力は貧弱だ。文字を通して目の前にない世界を思い描いたことのない人間には想像力は育たない。相手の感情を想像する力のない者同士が、貧弱な語彙力でスマホなどを通してコミュニケーションすれば、誤解や衝突が生じるのは当然だ。それがいじめのもとになり、若者の精神を蝕んでしまう。上手に使えば便利なはずの道具も、使い方を誤ると悪影響の方

が大きいということをお肝に銘じておきたい。スマホなどのデジタル機器は身体への悪影響も指摘されている。目や脳に対する刺激で睡眠の質や学習効果が低下するという。勉強を頑張った自分への「褒美」として寝る前にスマホゲームなど最悪であるらしい。人間の記憶は睡眠中に脳内で整理されるので、勉強したらすぐに寝るのが理想だ。勉強と就寝の間にスマホの刺激を入れることで、学習内容が吹っ飛んでしまうのだ。

令和二年度の内閣府の調査によると、高校生のスマホによるインターネット利用の平日一日あたりの平均時間は三時間二十八分だ。学習に関連する事柄を検索することもあるとは思いますが、おそらく娯楽として動画を視聴したり、オンラインゲームをしたりというのが大半だろう。それだけ多くの時間を割くことができるなら、せめてその半分の時間でも読書に充ててくれれば、高校生の思考力や判断力の向上、そして情緒の安定に寄与するのではと思うが、大人でさえスマホを手放せなくなっている世の中では、実現は簡単ではないようだ。

中国ではスマホ中毒になった若者を軍隊式の訓練で矯正する施設があるそうだ。しかしそこまで極端なものでもなく、「デジタル・デトックス」という対処法もある。食事や運動に気を配ることで体内から毒素を排出するように、一定期間デジタル機器を意識して遠ざけることで、ストレスの軽

三学期の主な行事 (予定)	
1月	始業式
11日(火)	課題実力考査
11日(水)	大学入学共通テスト
15日(土)	卒業考査
26日(水)	卒業考査
28日(金)	卒業考査
2月	
1日(火)	三年生自宅学習期間
1日(火)	中高一貫教育校 入学者選抜
3日(木)	学年末考査
17日(木)	学年末考査
22日(火)	表彰式
28日(月)	表彰式
3月	
1日(火)	第七十二回卒業式
25日(金)	修了式・離任式

減、睡眠の質の向上、人間本来の五感の芽えなどを期待できるという。経済最優先の日本では、このような情報が大きめに報じられることがないのだが、特に未来を担う若者は、自分の身は自分で守る術を身につける必要がある。デジタル・デトックスをしながら読書。これが今私が喜界高校生に取り組んでほしい事柄だ。若い時代の読書ほど後の人生の肥やしになるものはないということをお覚悟しておいてほしい。



「デジタル・デトックスと読書」

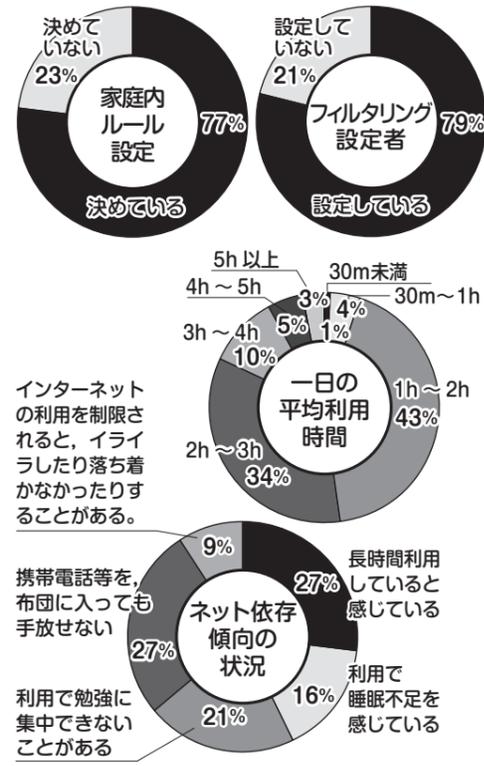
喜界高等学校 教頭 大倉秀心

生徒指導部より

携帯電話やインターネットの安全な利用について改めて考えよう

携帯電話やスマートフォン、インターネットの安全な利用に関しては、喜界高校ソーシャルメディアガイドラインで示されていますが、まだまだインターネットの利用について無防備な生徒もおり、犯罪被害やトラブルの増加、個人情報流出など様々な問題が起こりうる状態です。まずはフィルタリングの設定を必ずして下さい。

インターネット利用等 実態調査集計結果より



- インターネットの利用を制限されると、イライラしたり落ち着かなかつたりすることがある。
- 「趣味は何ですか?」と聞かれれば、「まあ、読書ですかねえ。」としか答えられないのだが、読書が趣味になって良かったと今ではつくづく感じる。まず、暇を持て余すことがない。飛行機や電車の待ち時間、銀行や病院などでの順番待ちで、いくら待たされても本さえあれば苦痛にならない。従って、イライラすることなく精神の健康状態を保てる。
- 読書がいつ趣味になったのかを考えてみると、小学生時代に図書室の本を借りていた記憶はあるが、自分のお小遣いでわざわざ本屋に行って本を買った時と定義すれば、中学校一年生か二年生ということになる。それ以来、ちよっとスキマ時間ができるたびに手を伸ばす習慣がついた。
- そう考えると、スキマ時間どころか大きな学習時間や睡眠時間まで奪ってしまうスマホの影響で、能動的な読書体験のない若者が最近めっきり多くなっていることが私の最大の懸念だ。当然、喜界高校生も例外ではなからう。本という文字の海で泳いだことのない人間の語彙力は貧弱だ。文字を通して目の前にない世界を思い描いたことのない人間には想像力は育たない。相手の感情を想像する力のない者同士が、貧弱な語彙力でスマホなどを通してコミュニケーションすれば、誤解や衝突が生じるのは当然だ。それがいじめのもとになり、若者の精神を蝕んでしまう。上手に使えば便利なはずの道具も、使い方を誤ると悪影響の方



- ### 新生徒会役員紹介
- 7月13日(火)に生徒会役員選挙が行われ、9月より新執行部が開始しました。新役員の名を紹介します。
- | | |
|------|-------------|
| 生徒会長 | 榎 悠太 (普2) |
| 副会長 | 中谷 巴音 (普2) |
| 書記局長 | 大塚 勇士 (商2) |
| 書記 | 富田 かえで (商1) |
| 会計 | 藤原 圭以 (商2) |

新生徒会長あいさつ

普通科2年 榎 悠太

このたび生徒会長を務めさせていただきます。普通科2年の榎悠太です。私は前年度から執行部に所属しており、これまでの反省点を改善し、より充実した生徒会にしていきたいと考えています。そこで、生徒会便りや定期考査の範囲表の作成、意見箱の設置を検討しています。さらに良い喜界高校を創るためには自分たちの意見を共有する必要があります。そうすることで、様々な活動に一杯取り組んで青春時代を謳歌する、挨拶の徹底や遅刻をしないなど「凡事徹底」ができる学校にしていきたいです。生徒の皆さんの協力なしでは学校を良くすることはできません。ぜひご協力をよろしくお願い致します。

地区大会・県大会 結果報告

- サッカー部
- 喜界 3-2 奄美
 - 喜界 0-2 奄美
 - 喜界 0-2 沖永良部
 - 喜界 0-4 大島
- バドミントン部
- 男子団体 準優勝
 - 男子個人ダブルス 大塚(七)・岩元組 準優勝
 - 男子個人シングルス 大塚(七) 準優勝
 - 岩元・豊島 ベスト8
 - 吉田 ベスト8
- 男子ソフトテニス部
- 団体戦 4位
 - 個人戦 川口・宮原組 準優勝
 - 決勝トーナメント 1回戦敗退
- 女子ソフトテニス部
- 団体戦 4位
 - 個人戦 市山・崎田組 準優勝
 - 決勝トーナメント ベスト8
 - 梅田・西原組 決勝トーナメント ベスト8
- 男子バスケットボール部
- 喜界 1-0 鹿屋農
 - 喜界 0-1 徳之島
 - 喜界 2-0 古仁屋
 - 喜界 2-0 古仁屋
- 女子バスケットボール部
- 喜界 1-2 野田女子
 - 喜界 71-94 古仁屋
- 吹奏楽部
- 「エールマーチ」折鶴 銅賞
 - 「中高合同出場」おひべ賞(ピッコロ) 富田

体育大会

9月5日(日)に予定されていた喜界高等学校「第72回 体育大会」が新型コロナウイルス感染症拡大により中止になりました。何もせず終わるのは、3年生がかわいそうだという事で、10月28日(木)に、小運動会を開催しました。時間の関係上、応援団エール、綱引き、学級対抗リレー、フォークダンス、心一つに、しかできませんでした。すべての種目をこなすことができず、不完全燃焼なところもあつたとは思いますが、三年生を中心に笑顔で精一杯取り組んでいる姿がいつも以上に輝いて見え、記憶に残る小運動会となりました。



組んでいきたいと思っておりますので、応援のほどよろしく願います。します。

応援団長コメント

緑軍団長 商業科3年 盛崎 仁

青空のもとで盛大に行われるはずだった体育大会も、新型コロナウイルスの感染拡大により中止になってしまいました。私たち3年生は今回の体育大会だけでなく昨年の修学旅行も中止になったため、思い出を作る機会が減ってしまいました。そんな

創立記念講演会

11月4日(木)、喜界島やマシヤル諸島など国内外の島嶼文化研究を行っている内田富男先生(明星大学教育学部教授)を講師としてお招きし、「好奇心(Curiosity)を磨くこと」というテーマで語っていただきました。また、先生のご友人でもある名城大学名誉教授アーナター・クマール先生がコメンテーターとして、講師と楽しく議論を深めていただき、在校生に異文化理解や学ぶことへの意義を伝えてもらいました。生徒たちの感想の一部を紹介します。

今日の講演を聴き、言語や方言が失われると、言葉自体がなくなるだけでなく、その土地に築かれてきた伝統や民族性まで失われると知り、驚いた。確かに、私の集落でも方言の一単語を日本語や英語で置き換える時、文章で説明はできても、適切な一単語で表せないことがある。普段の生活で特に気にも留めていなかったこの状況は、とても貴重で、自分の島の文化がいかに多様であるかを、講話を通して知ることができた。小さい島なのに、文化が詰まった方言が30以上あることも驚きだ。私は方言を聞いて理解することはできないが、話すことはできる。祖父母と話すときは、私にあわせて標準語で話してくる。私は英語に興味があり、外に目を向けてきた。しかし消えつつある方言こそ学ぶ



べきなのではないかと思った。今までの英語学習で学んだ言語習得のコツを、島の方言にも生かして理解したい。島のダイバーシティを理解し、守っていく存在になりたい。(3年女子)

本日の講演会で、私が17年間も暮らしてきたこの喜界島について、新たに特徴を知ることができたと思う。また、島外出身である先生方が、喜界島を探求し、私たちに多くのことを伝えてくださったことは、とてもありがたいことだ。喜界島には、多くの神社があることは知っており、私も幼少期に神社巡りをしたことがあったが、そのうちの約半数は、豊作を祈る保食神社であり、水神社が複数あることを初めて知った。さらに、喜界島出身の先輩方が島居を寄贈していることを知り、私も島外にでて出世し、島のために恩返しをしたいと思った。また、人が「すごい」と思うのには、4つの種類があるというところは考えたこともなかった。それらを知ること、ビジネスやエンターテインメント、SNSなどのバズに生かすことにつながると感じた。喜界島では、多様な集落行事や希少な動植物など、島外の人から「すこ



な私たちのためを思って、小運動会を企画し開催してください。た先生方や、盛り上げるために積極的に活動してくれた各学年の応援団員、生徒のみなさんには心から感謝しています。みんな楽しんで思い出を作ることができてとても幸せでした。来年度以降は、盛大な体育大会が開催されることを期待しています。

36回 樹祭

10月24日(日)に第36回樹祭が開催されました。喜界島でも新型コロナウイルスの感染が増え、しまった今年度は、ステージ部門をすべて映像作品とし、それぞれの教室で鑑賞するという形となりました。そのため、辞退せざるを得なくなった有志団体や内容を変更した学級もありましたが、「THE FIRST TAKE」の僕らの青春は一度きり」のテーマのもと、それぞれが今出来ることを最大限に考えて、つくり上げてくれました。例年にはない、映像作品だからこその出来る演出や、コロナ禍でも楽しめるアイデアが随所に見られ、生徒達の柔軟性や適応力に驚かされました。そして、一丸となって樹祭を成功に導いた実行委員の皆さん、本当にお疲れ様でした。一人一人が力を合わせ

て考え、行動してくれたことが、今回の樹祭の成功に繋がりました。来年度こそは、体育館で全員で盛り上げたいですね。また、人数制限等にもご理解いただいたPTAや地域の方々、本当にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

樹祭実行委員長コメント

商業科 3年 米盛 真央

樹祭実行委員長を務めさせていただき、とても良い経験ができたと思います。コロナウイルスの影響を受けた今年度は例年とは違い、全校生徒で体育館での発表・鑑賞ではなく、事前に樹祭全体をまとめて1本の動画を作成し、各クラス内で鑑賞する形となりました。いつもとは違う環境での開催で有志団



体が辞退するなどしたこともあり、皆が楽しめる樹祭になるのではないかと心配してしまつた。しかし先生方が身体を張って無茶ぶりに応じてくださつたり、生徒のみなさんや私自身がからだを張つたりしたこと、樹祭が成功に終わったと思います。最悪の場合、樹祭が中止になる可能性もありましたが、みなさんの協力のおかげで予定通り開催することができました。協力してくれた先生方や仲間たち、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

職業理解ガイダンス

11月10日(水)に県が企画する「かこしま」職の魅力発見プロジェクト 高校における県内企業等における出前講座」と、日本エアカミュニティー株式会社の「奄美群島の高校生に対する航空業界説明会」を活用して、職業理解ガイダンスを実施しました。今回は、株式会社ヴァイタライズから平塚仁氏と他4名の先生方、株式会社朝日酒造の喜禎浩之氏、日本エアカミュニティー株式会社の運輸企画部から上村徹氏、乗員査察部兼機長の高津竜一氏に講演していただきました。それぞれ

の現在の職業に就かれた経緯、仕事内容、地元で働くことの意味や魅力について実際の体験談を交えながら話をしました。普

段の生活では知り得ない情報を多く聞くことができ、今後の進路選択に大いに参考になったようでした。地元企業の方からの話では、喜界島で働くことの意義や喜界島の魅力を発信する重要性などを聞き、島に対する思いを強めた生徒も多かったようです。以下、生徒の感想を掲載します。今日の講話を聴いて島のよさを改めて感じました。「何もなかったが島のよさ」という言葉を聴いて、なるほどその通りだなと思いい、島の価値を見直すことができました。また健康であることや命を大事にすることを何度もおっしゃっていたので私も命を大事にいろいろなことに挑戦していきたいと思えます。今日学んだことをこれから意識して過ごしていきたいです。(2年生 男子)

総合的な探究の時間の取り組み

本校では、毎週火曜日にがじゅまるの時間がある。これは総合的な探究の時間を本校ではがじゅまると名称し、探究型の教育の強化を目指している。現2年生は、多くの講演会を通して喜界島について学んできた。その後テーマを決め、どのような活動をしていくか7月にテーマ発表会を行った。夏休みを利用して活動をする予定であったが、8月に喜界島のコロナ感染者数が増加し、各グループ思うように活動ができな



間グループ活動などが制限され、2学期は行事も多かったために、テーマ発表会から準備に十分な時間を確保することができないまま、11月22日に、2年生3年生、全16グループによる校内選考会を迎えた。短い期間ではあったが、今、自分たちができることを考え探究した内容であった。発表前には各グループ遅くまで残り、発表のために一生懸命取り組んでいる姿に感動した。今回、投票で選ばれた3グループ「目指せ!海ゴミゼロ」「喜界島の平均寿命を底上げしよう!」「バガスの有効活用」は、12月17日に中高合同発表会の舞台で発表し、その他のチームはポスターによる発表を行った。2年生は、来年度の最終発表に向けて今後どのように発展していくのか楽しみである。

